受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「ＳＢＩ全世界高配当株式ファンド（年１回決算型）（愛称：スマートベータ・世界高配当株式（成長型））」は、2026年８月20日に第２期決算を行いました。

当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第２期末（2026年８月20日）	
基準価額	14,193円
純資産総額	5,051百万円
第２期	
騰落率	29.6%
分配金（税込み）合計	0円

（注１）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
（注２）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。
（注３）当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しています。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記ＵＲＬにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒「目論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

ＳＢＩ全世界高配当株式ファンド（年１回決算型）（愛称：スマートベータ・世界高配当株式（成長型））

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第２期（決算日 2026年８月20日）

作成対象期間（2025年８月21日～2026年８月20日）

SBI Asset Management

ＳＢＩアセットマネジメント株式会社

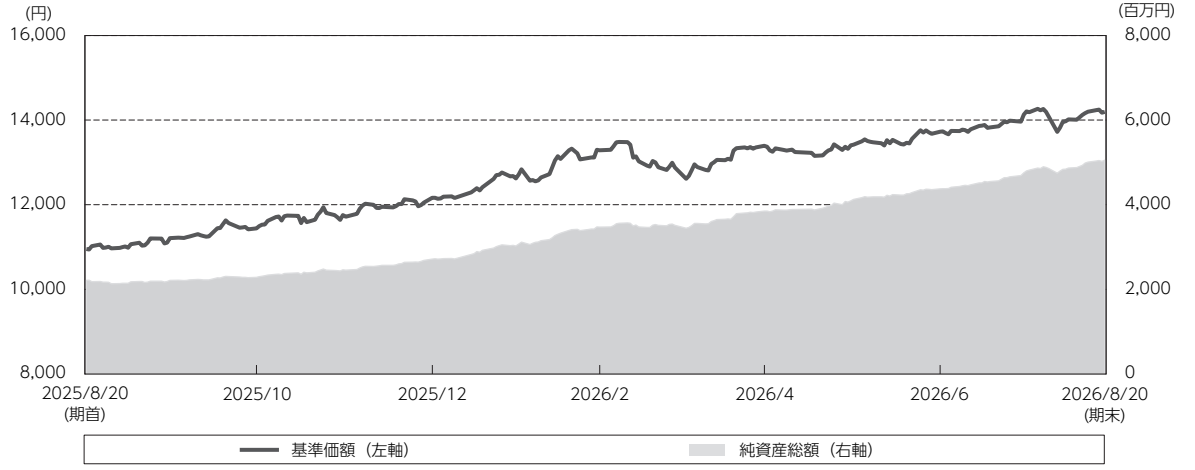
東京都港区六本木1-6-1
お問い合わせ先
電話番号 03-6229-0097
受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。
https://www.sbiam.co.jp/

運用経過

基準価額等の推移

（2025年８月21日～2026年８月20日）



期　　首：10,953円
期　　末：14,193円（既払分配金（税込み）：0円）
騰 落 率：　29.6%

（注１）当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。
（注２）当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

＜ＳＢＩ米国高配当株式マザーファンド＞

・AI（人工知能）関連投資の拡大を背景に、半導体や大型テクノロジー企業の株価が上昇したこと
・企業業績が総じて市場予想を上回り、投資家心理が改善したこと
・インフレ率の鈍化を背景に、金融政策に対する過度な警戒感が後退したこと

＜ＳＢＩ欧州高配当株式マザーファンドⅡ＞

・米国金融政策の緩和への期待
・欧州中央銀行（ECB）の利下げ、利下げへの期待
・中国の景気回復への期待
・ロシア、ウクライナ情勢の打開への期待、欧州域内の防衛費拡大への期待

＜ＳＢＩ日本高配当株式マザーファンド＞
・国内企業業績の好調持続
・AI半導体などの成長期待
・賃上げ、インバウンドなど国内景気の好調持続

＜ＳＢＩ新興国高配当株式マザーファンド＞
・米国の金融緩和期待の高まりを背景に、新興国株式市場へ資金が流入したこと
・AI関連需要の拡大により、台湾および韓国の半導体関連銘柄が上昇したこと
・中国において景気支援策や金融緩和策への期待が高まり、投資家心理が改善したこと
・高配当利回り銘柄への投資需要が継続したこと
・資源価格の改善や景気回復期待を背景に、ラテンアメリカや南アフリカ市場が期前半を中心に堅調に推移したこと

下落要因
＜ＳＢＩ米国高配当株式マザーファンド＞
・関税政策を巡る不透明感やインフレ再燃懸念
・長期金利上昇局面における株価調整
・中東情勢や米中関係を巡る地政学的リスク

＜ＳＢＩ欧州高配当株式マザーファンドⅡ＞
・米連邦準備制度理事会（FRB）の利下げ観測の後退、利下げペースの低下予想
・中国景気の低迷による世界的な需要不足への懸念
・欧州景気の先行き見通しの不透明感が強まったこと
・主要国を含めて既存与党の地位後退など政局の不安定化

＜ＳＢＩ日本高配当株式マザーファンド＞
・イラン問題の長期化
・米国のインフレ率高止まりによるFRBの利上げ懸念
・中国景気の低迷による世界的な需要不足への懸念

＜ＳＢＩ新興国高配当株式マザーファンド＞
・FRBの利下げ観測が後退する局面で、新興国市場から資金流出がみられたこと
・米国の関税政策や通商摩擦への懸念が高まったこと
・インド市場において高値警戒感や利益確定売りが強まったこと
・インドネシア市場において市場制度や指数見直しへの懸念が高まったこと
・期後半にかけて、ラテンアメリカおよび南アフリカ市場が資源価格の伸び悩みや世界景気減速懸念などから軟調に推移したこと

１万口当たりの費用明細

（2025年８月21日～2026年８月20日）

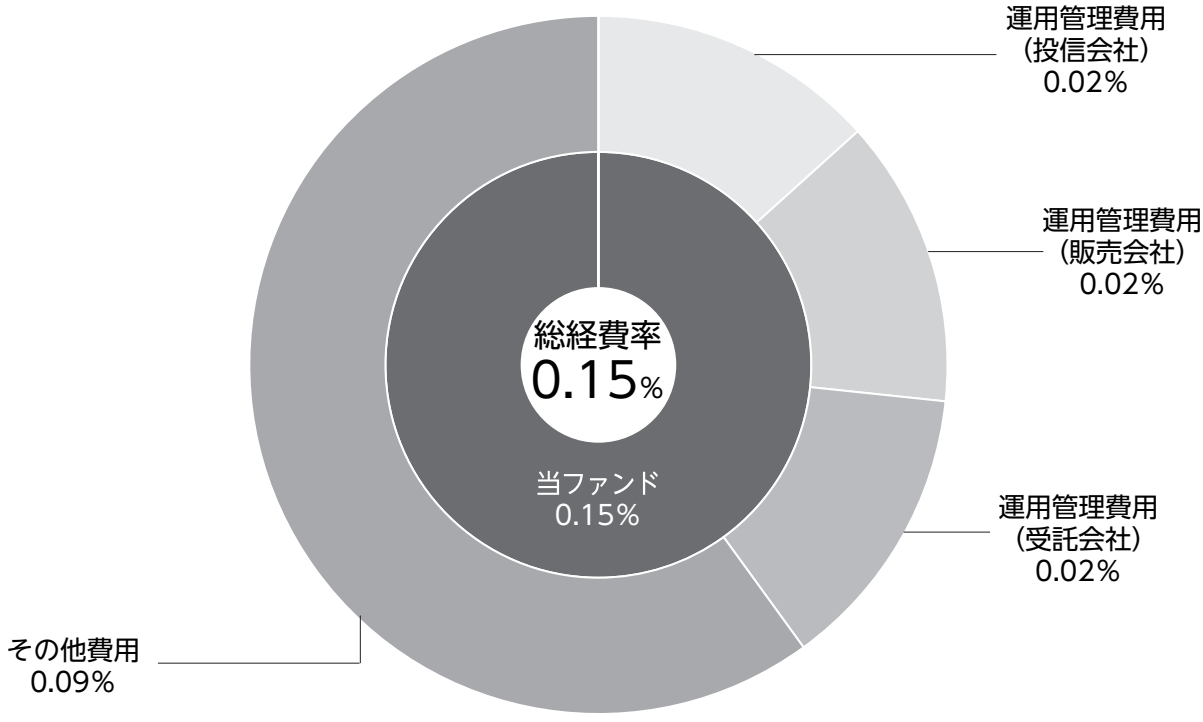
項目	第２期 金額	第２期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) 信託報酬	7	0.055	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(2)	(0.019)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(2)	(0.019)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.018)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	28	0.222	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株式）	(28)	(0.222)	
（投資信託証券）	(0)	(0.000)	
（先物・オプション）	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	15	0.117	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（株式）	(15)	(0.117)	
(d) その他費用	11	0.089	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(5)	(0.037)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(3)	(0.020)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷）	(4)	(0.032)	開示資料等の作成・印刷費用等
（その他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
（その他２）	(0)	(0.000)	新興国株式の売買益におけるキャピタルゲイン課税等
合計	61	0.483	
期中の平均基準価額は、12,644円です。			

（注１）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注２）消費税は報告日の税率を採用しています。
（注３）項目ごとに円未満は四捨五入しています。
（注４）売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
（注５）各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

（参考情報）

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.15％です。**



（注１）上記費用は、１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注２）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
（注３）各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。
（注４）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近５年間の基準価額等の推移

（2021年８月20日～2026年８月20日）



（注１）当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。
（注２）当ファンドについては設定日以降のデータが５年に満たないため、実在するデータ（2024年10月16日から2026年８月20日）のみの記載となっています。
（注３）当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

	2024年10月16日 設定日	2025年８月20日 決算日	2026年８月20日 決算日
基準価額　(円)	10,000	10,953	14,193
期間分配金合計（税込み）　(円)	－	0	0
基準価額騰落率　(%)	－	9.5	29.6
純資産総額　(百万円)	854	2,211	5,051

（注１）当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。
（注２）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。
（注３）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2025年８月20日の騰落率は設定当初との比較です。

投資環境

（2025年８月21日～2026年８月20日）

＜ＳＢＩ米国高配当株式マザーファンド＞

当期の米国株式市場は、米国経済の底堅さやAI（人工知能）関連投資の拡大を背景に総じて上昇しました。一方で、期中の値動きは一様ではなく、金融政策や通商政策を巡る不透明感から市場が大きく変動する局面もみられました。

特に2026年３月には、米国の関税政策を巡る不透明感に加え、中東情勢の緊迫化や米国とイランの対立激化を背景とした原油価格の急騰により、インフレ再燃や景気減速への懸念が高まり、市場は一時的に大きく調整しました。景気減速への警戒や企業業績見通しの下方修正懸念も重なったことで、投資家のリスク回避姿勢が強まり、ハイテク株を中心に株価が下落する場面がみられました。しかし、その後は企業業績が概ね堅調に推移したことに加え、インフレ率の鈍化やAI関連需要の継続的な拡大が確認されたことで投資家心理が改善し、市場は回復基調を辿りました。

米連邦準備制度理事会（FRB）は、景気およびインフレ動向を慎重に見極めながら金融政策を運営しました。市場では金融緩和期待が高まる局面があった一方で、堅調な雇用環境や底堅い経済活動を背景に政策金利の高止まり観測も根強く、金利見通しを巡って市場参加者の見方が交錯しました。

セクター別では、AI投資拡大やデータセンター需要の増加を背景に情報技術セクターが市場を牽引しました。また、これまで出遅れていたヘルスケアセクターにも見直し買いが入り、相場上昇に寄与しました。さらに、原油価格や天然ガス価格の上昇を受けてエネルギーセクターも堅調に推移しました。一方で、不動産や公益事業など金利感応度の高いセクターは、高水準の金利環境の影響を受け、相対的に上値の重い展開となりました。

この結果、S&P500種指数は期初から期末にかけて約20％前後上昇し、史上最高値圏で期末を迎えました。

＜ＳＢＩ欧州高配当株式マザーファンドⅡ＞

当期の欧州株式市場は上昇しました。期初は、米国での利下げ期待の高まりを背景に投資家心理が改善し、欧州株式市場は堅調に推移しました。2025年９月ごろにはフランスの政局不安が一時的に嫌気されたほか、世界景気を巡る不透明感も意識されましたが、米中間の関税摩擦懸念の後退期待などが支援材料となりました。その後は、米国政府機関閉鎖への懸念や大型ハイテク株への高値警戒感、米国の利下げペース鈍化観測などから上値の重い場面も見られました。一方で、景気下支えを目的とした金融緩和への期待が投資家心理を支え、2025年10月および12月の米国利下げも好感されました。

2026年に入ると、デンマーク自治領グリーンランドを巡る米欧間の関係悪化懸念が一時的に市場の重しとなりましたが、米国側の姿勢軟化を受けて警戒感は後退しました。また、２月にはAI関連技術との競合懸念からソフトウェア関連銘柄が売られる局面がありましたが、企業業績の改善基調が評価され、相場全体への影響は限定的となりました。こうした環境下、英国のFTSE100指数やドイツのDAX指数など主要株価指数は史上最高値を更新しました。ブルームバーグ欧州先進国市場500トータルリターン指数（ネット、ユーロベース）は1,800台前半で始まり、期末には2,200近辺まで上昇しました。セクター別では情報技術やエネルギーが堅調だった一方、一般消費財・サービスや通信サービスは相対的に軟調でした。国別ではオランダ、スペイン、オーストリアなどのパフォーマンスが良好だった一方、ドイツ、フランス、デンマークなどは相対的に出遅れました。

＜ＳＢＩ日本高配当株式マザーファンド＞

当期の日本株式市場は、AI関連需要の拡大や企業業績の改善を背景に、上昇基調で推移しました。期初は、生成AIの普及に伴う世界的な半導体投資拡大への期待から、半導体製造装置や電子部品関連銘柄が相場を牽引しました。また、企業による自社株買いや株主還元の強化、資本効率改善に向けた取り組みも評価され、日本株への資金流入が継続しました。

年末にかけては、堅調な企業業績や円安基調が輸出関連企業の収益拡大期待を支え、市場は底堅く推移しました。一方、日本銀行の金融政策正常化や海外金利動向を巡る不透明感から、一時的に変動性が高まる局面も見られましたが、相場全体への影響は限定的となりました。

2026年に入ってからは、AI向けデータセンター投資の拡大や半導体需要の高まりを背景に関連銘柄への物色が一段と強まり、主要株価指数は史上最高値圏まで上昇しました。一方で、相場上昇は半導体やハイテク関連など一部の成長分野に集中し、業種・銘柄間のパフォーマンス格差が拡大しました。期末にかけては、AI・半導体関連銘柄を中心に値動きが大きくなり、ハイテク株が乱高下する場面も見られましたが、市場全体としては高値圏で推移し、堅調な上昇相場となりました。

＜ＳＢＩ新興国高配当株式マザーファンド＞

当期の新興国株式市場は、米国の金融政策見通しや世界的な資金分散の動きを背景に、全体として堅調に推移しました。米国の利下げ期待や世界景気の底堅さが投資家心理を支えたほか、AI関連投資の拡大が半導体関連銘柄を中心に市場を押し上げました。

地域別では、台湾市場がAI関連半導体需要の拡大を背景に新興国市場全体をけん引しました。韓国市場も半導体市況の改善や輸出回復期待を背景として堅調な推移となりました。また、中国市場は景気刺激策や金融緩和策への期待に加え、株価水準の割安感も意識され、底堅く推移しました。

一方、ラテンアメリカ市場は、期前半には資源価格の回復や金融緩和期待を背景に上昇したものの、期後半には商品市況の伸び悩みや米金利上昇への警戒感から上値の重い展開となりました。ブラジル市場では財政運営や高金利環境への懸念も重石となりました。

南アフリカ市場についても、金属資源価格の上昇を背景に堅調に推移する局面が見られた一方、期後半には鉱業関連銘柄を中心に利益確定売りが強まり、相対的に低調な推移となりました。

インド市場は良好な経済成長が継続したものの、高い株価バリュエーションに対する警戒感や利益確定売りから相対的に伸び悩みました。また、インドネシア市場は指数見直しに対する懸念などを背景に軟調な推移となりました。

中東市場は原油価格が概ね底堅く推移したことやエネルギー関連企業の業績改善が支援材料となりましたが、地政学的リスクの高まりを受けて市場の変動性が高まる場面も見られました。

セクター別では、情報技術セクターが最も良好なパフォーマンスとなり、半導体関連銘柄を中心に市場をけん引しました。また、金融セクターも高配当利回り銘柄を中心に堅調に推移しました。一方、通信サービスやヘルスケアは相対的に軟調な展開となり、素材およびエネルギーセクターについても期後半には資源価格の伸び悩みを背景として上昇幅が抑制されました。

当ファンドのポートフォリオ

（2025年８月21日～2026年８月20日）

＜当ファンド＞

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、日本を含む世界各国の株式に実質的に分散投資し、配当利回りに着目し、高水準のインカムゲインと中長期的な値上がり益の獲得によるトータル・リターンの追求をめざして運用を行いました。

＜ＳＢＩ米国高配当株式マザーファンド＞

当期、当マザーファンドは上昇しました。主力製品の販売堅調からメルク、金価格上昇からニューモント、防衛・宇宙関連事業好調からムーグ、などがパフォーマンスにプラスに寄与しました。一方、競争激化からラム・ウェストン、成長投資や競争激化による悪影響への懸念からAT&T、収益性への懸念からエナジャイザー・ホールディングス、などがマイナスに寄与しました。

当期、セクターでは、配当利回り水準等勘案して、生活必需品、金融、情報技術、資本財・サービスなどのウェイトを減らし、ヘルスケア、エネルギーなどのウェイトを増やしました。

＜ＳＢＩ欧州高配当株式マザーファンドⅡ＞

当期、当マザーファンドは上昇しました。半導体需要への期待から買われたASMLホールディングス、AI関連需要への期待からシーメンス・エナジー、エネルギーが価格の高止まりからレプソルなどがパフォーマンスにプラスに寄与しました。一方、収益性への警戒感が強まったアドミラル・グループ、欧州自動車市場の需要減速などから収益見通しが懸念されたステランティス、コールセンター業界の成長見通しに対する懸念が意識されたテレパフォーマンス、などのマイナス寄与が大きくなりました。

当期、セクターでは、配当利回り水準等勘案して、不動産、情報技術などのウェイトを増やしました。一方、資本財・サービス、通信サービスなどのウェイトを減らしました。国別では、ドイツ、スペイン、フランスなどを減らし、イタリア、英国などを増やしました。

＜ＳＢＩ日本高配当株式マザーファンド＞

当期、当マザーファンドは上昇しました。日本銀行による利上げに伴う収益改善期待などを背景に、三井住友フィナンシャルグループや三菱UFJフィナンシャル・グループなどの銀行株が上昇し、プラスに寄与しました。また、時計事業や工作機械事業の需要拡大を背景に業績予想を上方修正したシチズン時計も上昇し、基準価額の上昇に貢献しました。

一方で、業績回復の動きが鈍かったSANKYOや、業績予想の下方修正を発表したSUBARUは下落し、マイナスに寄与しました。

当期中は、小森コーポレーション、アサヒグループホールディングスなどの銘柄を新たに組み入れました。

＜ＳＢＩ新興国高配当株式マザーファンド＞

当期、当マザーファンドは上昇しました。エネルギー価格上昇にオーレン、MOL、国内景気が比較的堅調であったことや好調な業績と先行きへの期待から、バンコ・デ・チレ、などがパフォーマンスにプラスに寄与しました。一方、利益成長鈍化への懸念にオールウィン、CPFLエネルジア、金利上昇による不動産株への逆風懸念からシレラ・ブラジル・リアルティ、などがマイナスに寄与しました。

当期、セクターは、配当利回り水準等勘案して、通信サービス、資本財・サービス、情報技術などを減らし、エネルギー、金融などを増やしました。国別では、韓国、中国、チリなどのウェイトを減らしました。ブラジル、ギリシャ、ポーランドなどのウェイトを増やしました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2025年８月21日～2026年８月20日）

当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

分配金

（2025年８月21日～2026年８月20日）

当期の分配金は、運用の効率性を勘案し、見送りといたしました。

なお、分配にあてずに信託財産内に留保した収益の運用につきましては、特に制限を定めず、運用の基本方針に基づき元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、１万口当たり、税込み）

項　　目	第２期 2025年８月21日～ 2026年８月20日
当期分配金 (対基準価額比率)	－ －％
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	4,193

（注１）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注２）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

＜当ファンド＞

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

各マザーファンドによる株式への投資にあたっては、配当利回りに着目し、高水準のインカムゲインと中長期的な値上がり益の獲得によるトータル・リターンの追求をめざします。

各投資対象地域の投資にあたっては、それぞれの平均配当利回りが市場平均を上回るように銘柄の選定を行うことを基本とします。

各マザーファンドの投資配分比率については、随時、変更します。

実質組入外貨建資産については、為替ヘッジを行いません。

＜ＳＢＩ米国高配当株式マザーファンド＞

トランプ政権の「関税」について、複数の通商法制を組み合わせて保護主義的な政策が続けられています。関税率は歴史的に見て高水準な状態が続き、制裁対象で高関税でもある中国から他の新興国等への生産拠点の分散傾向が続くと予想されます。景気、企業業績、金利等の要因とともに相場の材料として定番化しており、長期化が予想されます。関税の影響は、企業の価格転嫁、売上の変化等個別要因が大きく、企業の業績見通しを織り込むプロセスが続くと考えられます。貿易以外の分野への間接的な影響も、具体的な影響度を測るには時間を要すると考えられます。欧州中央銀行（ECB）の金融政策動向、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融政策動向も米関税政策の影響を見極めながら進められると予想さ

れますので、不確実性、複雑性が高まり、先行き見通しの不透明感が長期にわたり継続する可能性が高まった状況が続いております。また、ウクライナ情勢、欧州連合（EU）主要国の財政支出拡大、中国の景気動向に加えて米国、イスラエルとイランの紛争なども材料として注目されております。地政学リスクもトランプ政権の行動を受けさらに高まっております。こうした様々な材料を注視してまいりたいと考えております。米中関係の緊張に加えてイランでの紛争の行方も原油価格上昇、サプライショックなどから長期化するほど景気後退リスク、インフレ、金利上昇リスクが高まりますので、注視しております。景気動向、金利動向への不透明感が高まっており、物色動向の変化が大きくなっております。需要拡大への期待から大きく上昇していたAI関連株上昇に変調が見られ、市場の変動性が高まっており行方を注視しております。

引き続き、米国の高配当利回りの組入を中心として、配当利回りの上昇、増配が期待される銘柄へも投資し、インカムゲイン（分配）の獲得に加えて株価上昇（成長）も獲得したいと考えております。

＜ＳＢＩ欧州高配当株式マザーファンドⅡ＞

トランプ政権の「関税」について、複数の通商法制を組み合わせて保護主義的な政策が続けられています。関税率は歴史的に見て高水準な状態が続き、制裁対象で高関税でもある中国から他の新興国等への生産拠点の分散傾向が続くと予想されます。景気、企業業績、金利等の要因とともに相場の材料として定番化しており、長期化が予想されます。関税の影響は、企業の価格転嫁、売上の変化等個別要因が大きく、企業の業績見通しを織り込むプロセスが続くと考えられます。貿易以外の分野への間接的な影響も、具体的な影響度を測るには時間を要すると考えられます。ECBの金融政策動向、FRBの金融政策動向も米関税政策の影響を見極めながら進められると予想されますので、不確実性、複雑性が高まり、先行き見通しの不透明感が長期にわたり継続する可能性が高まった状況が続いております。また、ウクライナ情勢、EU主要国の財政支出拡大、中国の景気動向に加えて米国、イスラエルとイランの紛争なども材料として注目されております。地政学リスクもトランプ政権の行動を受けさらに高まっております。こうした様々な材料を注視してまいりたいと考えております。米中関係の緊張に加えてイランでの紛争の行方も原油価格上昇、サプライショックなどから長期化するほど景気後退リスク、インフレ、金利上昇リスクが高まりますので、注視しております。景気動向、金利動向への不透明感が高まっており、物色動向の変化が大きくなっております。需要拡大への期待から大きく上昇していたAI関連株上昇に変調が見られ、市場の変動性が高まっており行方を注視しております。

私どもは、引き続き、欧州の高配当利回りの組入を中心として、GRANOLAS※など成長性の高い、増配が期待される銘柄などへも投資し、インカムゲイン（分配）の獲得に加えて株価上昇（成長）も獲得したいと考えております。

※GRANOLAS

欧州株式市場の上昇の牽引役と目される、高く安定した成長性、強固な財務基盤、良好な配当利回りなどを特徴とする11企業。GlaxoSmithKline(医薬品、イギリス)、Roche Holding AG（医薬品、スイス）、ASML Holding NV（半導体製造装置、オランダ）、Nestle SA(食品、スイス)、Novartis AG(医薬品、スイス)、Novo Nordisk A/S(医薬品、デンマーク)、L’Oreal S.A.（化粧品、フランス）、LVMH Moet Hennessy Louis Vuitton SA（高級品、フランス）、AstraZeneca PLC（医薬品、イギリス）、SAP SE（ソフトウェア、ドイツ）、Sanofi（医薬品、フランス）を指します。

＜ＳＢＩ日本高配当株式マザーファンド＞

これまで相場をけん引してきたAI・半導体関連銘柄は、業績好調な銘柄が多いものの、事前の織り込みにより明暗がわかれました。ただし、関連銘柄の決算内容を見る限り、足元の需要は強く、半導体部材関連は引き続き注目していきます。銀行については、日銀の利上げ期待は継続しており、貸出の伸長などから引き続き収益改善が見込めるとともに、それに伴う増配が期待できると考えています。また、これまでの株価の調整で、配当利回り面での魅力が出てきた内需関連にも注目していきます。

私どもは引き続き、収益性に優れ、しっかりとした配当政策を有する企業への投資を行うことで、インカムゲインの獲得とともに、中長期的なパフォーマンスにつなげたいと考えております。

＜ＳＢＩ新興国高配当株式マザーファンド＞

トランプ政権の「関税」について、複数の通商法制を組み合わせて保護主義的な政策が続けられています。関税率は歴史的に見て高水準な状態が続き、制裁対象で高関税でもある中国から他の新興国等への生産拠点の分散傾向が続くと予想されます。景気、企業業績、金利等の要因とともに相場の材料として定番化しており、長期化が予想されます。関税の影響は、企業の価格転嫁、売上の変化等個別要因が大きく、企業の業績見通しを織り込むプロセスが続くと考えられます。貿易以外の分野への間接的な影響も、具体的な影響度を測るには時間を要すると考えられます。ECBの金融政策動向、FRBの金融政策動向も米関税政策の影響を見極めながら進められると予想されますので、不確実性、複雑性が高まり、先行き見通しの不透明感が長期にわたり継続する可能性が高まった状況が続いております。また、ウクライナ情勢、EU主要国の財政支出拡大、中国の景気動向に加えて米国、イスラエルとイランの紛争なども材料として注目されております。地政学リスクもトランプ政権の行動を受けさらに高まっております。こうした様々な材料を注視してまいりたいと考えております。米中関係の緊張に加えてイランでの紛争の行方も原油価格上昇、サプライショックなどから長期化するほど景気後退リスク、インフレ、金利上昇リスクが高まりますので、注視しております。景気動向、金利動向への不透明感が高まっており、物色動向の変化が大きくなっております。需要拡大への期待から大きく上昇していたAI関連株上昇に変調が見られ、市場の変動性が高まっており行方を注視しております。

私どもは、引き続き、新興市場の高配当銘柄中心の投資を行い、成長の追求、分配の追求をめざしてまいります。

お知らせ

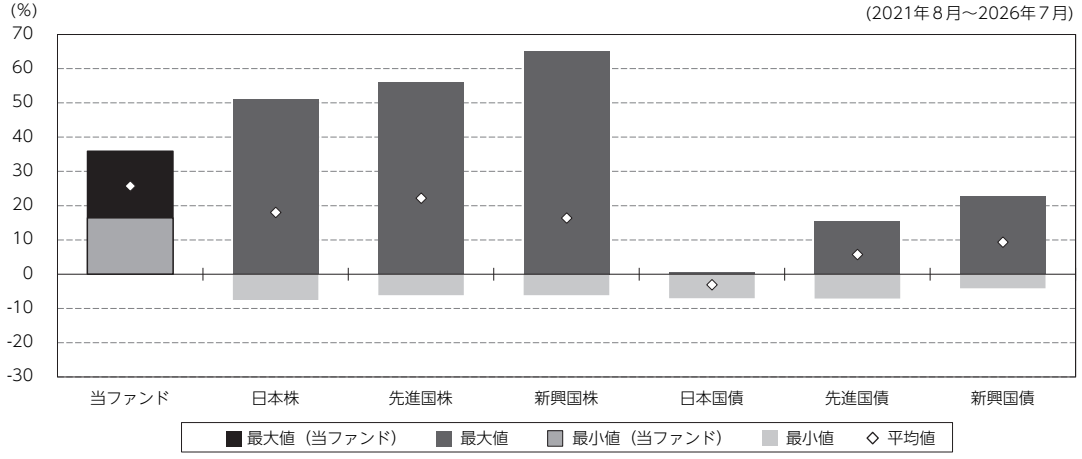
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	無期限（設定日：2024年10月16日）	
運用方針	当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド (ベビーファンド)	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	＜ＳＢＩ米国高配当株式マザーファンド＞ 米国の株式を主要投資対象とします。 ＜ＳＢＩ欧州高配当株式マザーファンドⅡ＞ 欧州の株式を主要投資対象とします。 ＜ＳＢＩ新興国高配当株式マザーファンド＞ 新興国の株式を主要投資対象とします。 ＜ＳＢＩ日本高配当株式マザーファンド＞ 日本の株式を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド (ベビーファンド)	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、日本を含む世界各国の株式に実質的に分散投資します。
	マザーファンド	＜ＳＢＩ米国高配当株式マザーファンド＞ 主として米国の株式に投資し、中長期的に信託財産の成長をめざして運用を行います。 ＜ＳＢＩ欧州高配当株式マザーファンドⅡ＞ 主として欧州の株式に投資し、中長期的に信託財産の成長をめざして運用を行います。 ＜ＳＢＩ新興国高配当株式マザーファンド＞ 主として新興国の株式に投資し、中長期的に信託財産の成長をめざして運用を行います。 ＜ＳＢＩ日本高配当株式マザーファンド＞ 主として日本の株式に投資し、中長期的に信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。
分配方針	年１回（毎年８月20日。ただし、休業日の場合は翌営業日）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額とします。）等の全額とします。収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を定めず、運用の基本方針に基づき元本部分と同一の運用を行います。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：％）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	35.9	51.0	55.9	65.1	0.6	15.4	22.7
最小値	16.5	△ 7.5	△ 6.1	△ 6.1	△ 7.0	△ 7.1	△ 4.1
平均値	25.7	18.0	22.2	16.4	△ 3.1	5.7	9.3

（注１）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注２）2021年８月から2026年７月の５年間の各月末における直近１年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
（注３）当ファンドについては設定日以降のデータが５年に満たないため、2025年10月から2026年７月のデータを基に算出しています。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。
（注４）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《代表的な各資産クラスの指数》
日 本 株…Morningstar 日本株式指数
先進国株…Morningstar 先進国株式指数（除く日本）
新興国株…Morningstar 新興国株式指数
日本国債…Morningstar 日本国債指数
先進国債…Morningstar グローバル国債指数（除く日本）
新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

*各指数についての説明は、P20の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

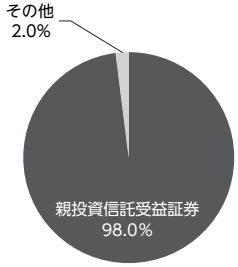
（2026年８月20日現在）

○組入上位ファンド

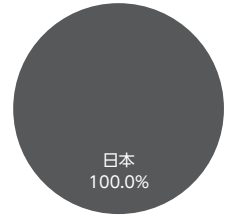
銘　柄　名	第２期末
	%
ＳＢＩ米国高配当株式マザーファンド	43.9
ＳＢＩ欧州高配当株式マザーファンドⅡ	25.3
ＳＢＩ日本高配当株式マザーファンド	14.9
ＳＢＩ新興国高配当株式マザーファンド	13.9
組入銘柄数	４銘柄

（注１）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
（注２）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

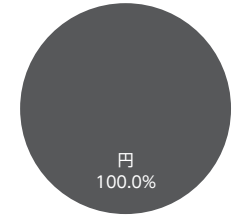
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注１）資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。
（注２）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。
（注３）国別配分の比率はマザーファンドの評価額に対する割合です。

純資産等

項　目	第２期末 2026年８月20日
純資産総額	5,051,899,060円
受益権総口数	3,559,316,630口
１万口当たり基準価額	14,193円

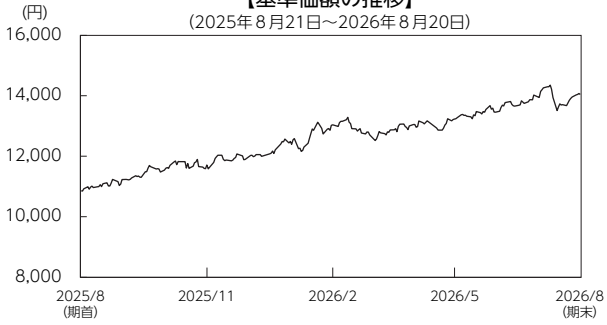
（注）期中における追加設定元本額は2,328,641,877円、同解約元本額は788,757,383円です。

組入上位ファンドの概要

ＳＢＩ米国高配当株式マザーファンド

【基準価額の推移】

（2025年８月21日～2026年８月20日）



【１万口当たりの費用明細】

（2025年８月21日～2026年８月20日）

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	11円	0.091%
(株式)	(11)	(0.091)
(b) 有価証券取引税	0	0.000
(株式)	(0)	(0.000)
(c) その他費用	2	0.012
(保管費用)	(2)	(0.012)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	13	0.103
平均基準価額は、12,546円です。		

（注）上記項目の概要につきましては、Ｐ３をご参照ください。

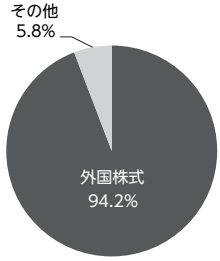
【組入上位10銘柄】

（2026年８月20日現在）

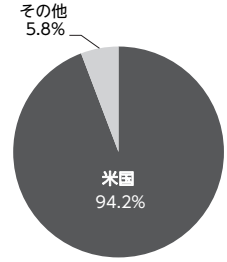
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	MERCK & CO. INC.	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	米国	3.4
2	JOHNSON & JOHNSON	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	米国	3.3
3	HF SINCLAIR CORP	エネルギー	米ドル	米国	3.1
4	OMEGA HEALTHCARE INV	エクイティ不動産投資信託（REIT）	米ドル	米国	3.0
5	KINETIK HOLDINGS INC	エネルギー	米ドル	米国	3.0
6	PFIZER INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	米国	3.0
7	JPMORGAN CHASE & CO	銀行	米ドル	米国	2.8
8	ALTRIA GROUP INC	食品・飲料・タバコ	米ドル	米国	2.8
9	AMGEN INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	米国	2.8
10	CHEVRON CORP	エネルギー	米ドル	米国	2.7
組入銘柄数		74銘柄			

（注１）比率は、純資産総額に対する割合です。
（注２）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
（注３）国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

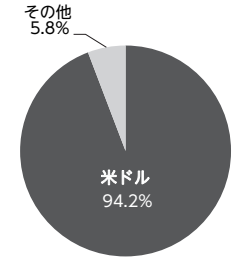
【資産別配分】



【国別配分】



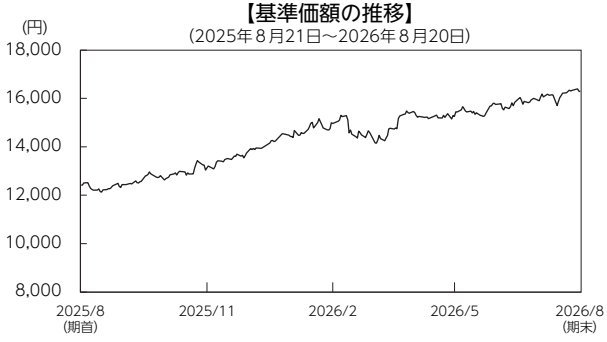
【通貨別配分】



（注１）比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。
（注２）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
（注３）資産別配分、国別配分、通貨別配分は小数点第２位で四捨五入しているため、合計が100％に満たない場合があります。
※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照下さい。

ＳＢＩ欧州高配当株式マザーファンドⅡ

【基準価額の推移】



(2025年８月21日～2026年８月20日)

【１万口当たりの費用明細】

(2025年８月21日～2026年８月20日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	56円	0.392%
(株式)	(56)	(0.392)
(b) 有価証券取引税	64	0.444
(株式)	(64)	(0.444)
(c) その他費用	6	0.038
(保管費用)	(5)	(0.038)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	126	0.874
平均基準価額は、14,310円です。		

(注) 上記項目の概要につきましては、Ｐ３をご参照ください。

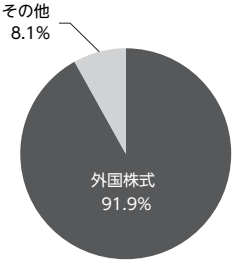
【組入上位10銘柄】

(2026年８月20日現在)

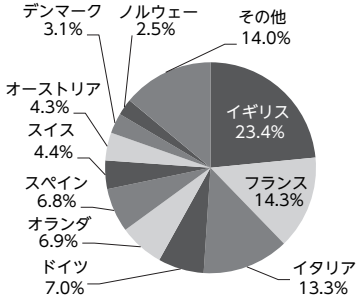
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	ASML HOLDING NV	半導体・半導体製造装置	ユーロ	オランダ	3.7
2	JOHNSON MATTHEY PLC	素材	ポンド	イギリス	3.5
3	BT GROUP PLC	電気通信サービス	ポンド	イギリス	3.3
4	BANCA MONTE DEI PASC	銀行	ユーロ	イタリア	2.3
5	BANCO BPM SPA	銀行	ユーロ	イタリア	2.2
6	BAWAG GROUP AG	銀行	ユーロ	オーストリア	2.0
7	ERSTE GROUP BANK AG	銀行	ユーロ	オーストリア	1.8
8	POSTE ITALIANE SPA	保険	ユーロ	イタリア	1.6
9	NORDEA BANK ABP	銀行	ユーロ	フィンランド	1.6
10	ENEL SPA	公益事業	ユーロ	イタリア	1.5
組入銘柄数		112銘柄			

(注１) 比率は、純資産総額に対する割合です。
(注２) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注３) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

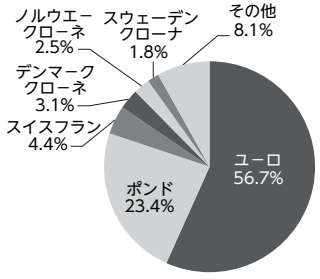
【資産別配分】



【国別配分】



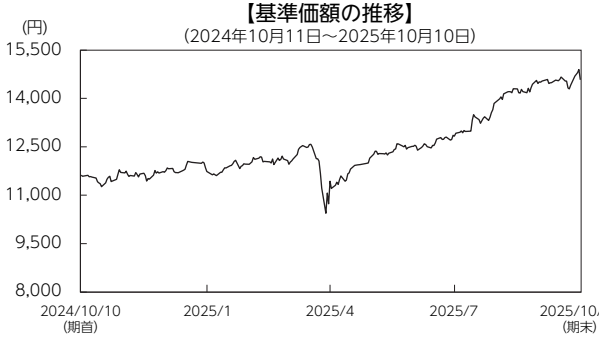
【通貨別配分】



(注１) 比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。
(注２) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
(注３) 資産別配分、国別配分、通貨別配分は小数点第２位で四捨五入しているため、合計が100%に満たない場合があります。
※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照下さい。

ＳＢＩ日本高配当株式マザーファンド

【基準価額の推移】
（2024年10月11日～2025年10月10日）



【１万口当たりの費用明細】
（2024年10月11日～2025年10月10日）

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	1円	0.009%
(株式)	(1)	(0.009)
(投資信託証券)	(0)	(0.000)
(先物・オプション)	(0)	(0.000)
合計	1	0.009
平均基準価額は、12,559円です。		

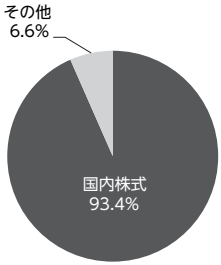
（注）上記項目の概要につきましては、Ｐ３をご参照ください。

【組入上位10銘柄】
（2025年10月10日現在）

	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	ソフトバンク	情報・通信業	円	日本	3.5
2	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	円	日本	2.8
3	ＳＢＩホールディングス	証券、商品先物取引業	円	日本	2.4
4	ＴＯＹＯ　ＴＩＲＥ	ゴム製品	円	日本	2.4
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	円	日本	2.3
6	ＭＳ＆ＡＤインシュアランスグループホールディングス	保険業	円	日本	2.1
7	三菱商事	卸売業	円	日本	2.0
8	武田薬品工業	医薬品	円	日本	2.0
9	日本たばこ産業	食料品	円	日本	1.9
10	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	円	日本	1.8
組入銘柄数		101銘柄			

（注１）比率は、純資産総額に対する割合です。
（注２）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
（注３）国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

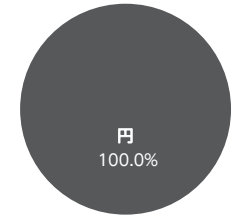
【資産別配分】



【国別配分】



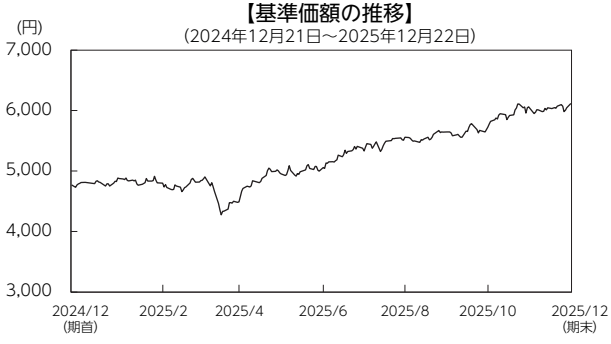
【通貨別配分】



（注１）比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。
（注２）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
（注３）資産別配分、国別配分、通貨別配分は小数点第２位で四捨五入しているため、合計が100％に満たない場合があります。
※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照下さい。

ＳＢＩ新興国高配当株式マザーファンド

【基準価額の推移】



(2024年12月21日～2025年12月22日)

【１万口当たりの費用明細】

(2024年12月21日～2025年12月22日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	42円	0.804%
(株式)	(42)	(0.804)
(b) 有価証券取引税	7	0.135
(株式)	(7)	(0.135)
(c) その他費用	16	0.302
(保管費用)	(16)	(0.301)
(その他)	(0)	(0.000)
(その他２)	(0)	(0.000)
合計	65	1.241
平均基準価額は、5,215円です。		

(注) 上記項目の概要につきましては、Ｐ３をご参照ください。

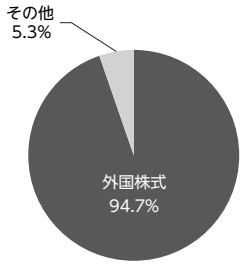
【組入上位10銘柄】

(2025年12月22日現在)

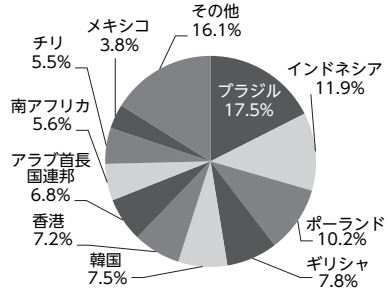
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	ALAMTRI RESOURCES IN	エネルギー	インドネシア・ルピア	インドネシア	5.4
2	PETROBRAS - PETROLEO	エネルギー	ブラジル・リアル	ブラジル	4.4
3	ORLEN SA	エネルギー	ポーランド・ズロチ	ポーランド	3.4
4	POWSZECHNY ZAKLAD UB	保険	ポーランド・ズロチ	ポーランド	3.3
5	BANK PEKAO SA	銀行	ポーランド・ズロチ	ポーランド	3.2
6	ABU DHABI ISLAMIC BA	銀行	UAE・ディルハム	アラブ首長国連邦	3.1
7	NATIONAL BANK OF GRE	銀行	ユーロ	ギリシャ	3.1
8	INDUSTRIAL BANK OF K	銀行	韓国・ウォン	韓国	2.9
9	BANCO DE CHILE	銀行	チリ・アンペソ	チリ	2.9
10	MOL HUNGARIAN OIL AN	エネルギー	ハンガリーフォリント	ハンガリー	2.7
組入銘柄数		62銘柄			

(注１) 比率は、純資産総額に対する割合です。
(注２) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注３) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

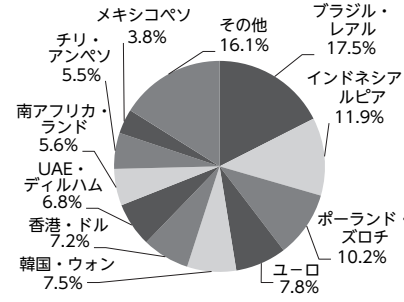
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注１) 比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。
(注２) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
(注３) 資産別配分、国別配分、通貨別配分は小数点第２位で四捨五入しているため、合計が100%に満たない場合があります。
※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照下さい。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

〈各指数の概要〉

日 本 株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はモーニングスター・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。